日本基督教団　関東教区

関東教区通信

No.147　2017年5月7日

発行者　日本基督教団関東教区
総会議長　秋　山　　徹
事務所　〒330-0844　さいたま市大宮区下町3－39
電　　話　048－647－0862
ファックス　048－647－0978
郵便振替　00140－3－67727
Eメール　kantou@church.email.ne.jp
URL　http://uccjkanto.holy.jp/index.htm

キリストの名によって

使徒言行録3章1～10節

石岡教会牧師　大森　清一

美しい門のそばに座って施しを乞うていた、生まれながら足の不自由な男は、ペテロとヨハネの「ナザレの人イエス･キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」との言葉によって、躍り上がって立ち、歩きだしました。

信仰が与えられるということは、死にゆく者が新しい命を賜り、劇的な変化を経験することです。今までは自己が中心で、目の前のことだけしか見ていません。しかし、天からの恵みによって主イエスの真理、命、道が与えられます。1回限りのかけがえのない人生が諦めで終わらず、キリストの名によって彼の身に信仰、希望、愛が与えられたのです。希望のない人間に聖霊が注がれ、キリストを信じる人に変えられました。生涯、足は治らないとあきらめていましたが、奇跡が自分の身に起こりました。この男は神の国に繋がったのです。この地上に一時の人間が、御国へと導かれ、永遠の命を賜りました。足の不自由な男を知っていた人々は皆、彼が躍り上がって歩いているのを見て驚きました。キリストの名は諦めを喜びに変え、生きていく力を与えます。私どもも病気、体力の衰え、高齢などさまざまな困難に諦めざるを得ない状況に取り囲まれています。しかし、この足の不自由な男を立ち上がらせたキリストの名は今も生きて働く神の力、聖霊として私たちを取り囲み、満ち溢れているのです。

2016年春、石岡教会は土地、礼拝堂を失い、路頭に迷いました。借地の返還を求められたのです。困惑しながら、「礼拝する場を与えてください。」と祈り始めました。会堂基金として、わずかな備えしかなかったので、またどこか、ふさわしい所を借りることを考え、中古物件を探していました。しかし、神の御計画は人の思いをはるかに超えています。戸惑う者に、主は一つ一つ御言葉を与え導いてくださいました。

ヨシュア記6章、エリコの町を回ったヨシュアのごとく、私は石岡の町を一周3時間かけて7回まわり、正に最後に歩いていた近くの土地100坪余が与えられたのです。また、礼拝説教で出エジプト記3章1～6節が示され、「足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」柴が燃えているのに燃え尽きない。燃える火、礼拝の根拠を示され、この土地に礼拝堂を建てることにしました。出エジプトしたイスラエル民族のように石岡教会も長く苦しい道を歩み続けてきましたが約束の地が与えられたのです。そして、さらにイザヤ書を通し「荒れ野に水が湧き、荒れ地に川が流れる。」と示され、会堂建築の決断がみんなの中に固まりました。この時、信濃町教会で行われていた「カール・バルトの教会論」の読書会に参加し、信仰告白の重みを知らされました。私たちは小さい群ではあるけれど、会堂建築を信仰告白とする。こうして、建築献金の趣意書に教会員一人一人の「信仰告白」が記されたのです。多くの教会、兄姉から、愛の証である献金が寄せられ、励まされました。

4月工事着工、9月末会堂竣工。10月2日より新会堂で礼拝を捧げています。

石岡教会は64年間、自分たちの土地も礼拝堂も持てなかった。唯、美しい門に座っていたのです。自分の足で立てなかった。しかし、キリストの名によって立ち上がることができたのです。本当に奇跡は起こりました。どんなときにも主を仰ぎ見つつ困難に耐えて礼拝を守り続けてきた信仰者の群に、神は目を向けてくださっていたのです。

状況がどんなに絶望的であったとしても、神の計り知れない力は「キリストの名によって」現状を動かして下さるということを私たちは味わい知らされました。キリストの名によって希望をもって前進していきたい。信仰の新しい戦いがこれから始まるのですから。主によって祈ります。

アーメン

第67回関東教区総会のご案内

教区副議長　熊江　秀一

第67回関東教区総会は、来る2017年5月30日（火）～31日（水）に、さいたま市・ソニックシティ小ホールを会場として開催されます。総会の設営は群馬地区に担当いただきます。また受付や総会特別委員等は、議員の皆様にもご奉仕いただくことになります。依頼のありました際には、よろしくお願いいたします。

今年の教区総会の議案と流れについては、後日送付される「第67回教区総会『議案・報告書』」をご覧ください。その「目次」には今総会で扱う議案・報告の全表題が記載されています。また流れは「仮執行順序」をご覧ください。議員の皆様は予め読んで総会にご出席下さるようにお願いいたします。

受付は午前9時半からです。午前10時前までに登録を済ませ、当日お渡しする資料の袋に記された所定の席にお座りください。遅れないようにご協力下さい。袋の中には名札が入っています。会場では常にお付け下さい。

教区総会は開会礼拝から始まります。御言葉を聞き、祈りと賛美を捧げ、主にすべてを委ねて総会を開始します。また礼拝の中で聖餐式が執り行われます。関東教区がキリストのからだとして一つであることを実感できる恵みの時です。

その後、「組織会」、「議事Ⅰ」。総会のための委員や奉仕者を選任します。来賓紹介後の昼食時には教区内の関係学校紹介をいたします。

昼食後、准允式を執行いたします。これは教区総会にゆだねられている「教師をたてる」大切な式です。教師の誕生を共に喜び、共に祝いましょう。その後、新任教師紹介・隠退教師紹介。そして教団問安使によるご挨拶をいただきます。

第67回教区総会における重要な議案をご案内いたします。今総会は選挙総会となります。まず教区総会議長選挙。続いて副議長選挙、書記、宣教部委員長、常置委員選挙（教師5名、信徒5名）が行われます。今後2年間の教区運営に仕える役員の選挙です。祈りつつ投票をお願いします。また各部・各委員会の委員の選任もされます。

「東日本大震災」被災による建物再建を終えた今期、同被災支援委員会と中越・中越沖地震被災支援委員会とを統合し、その働きを継承する、新たな「災害支援体制」構築も重要な議案です。再建後の教会に寄り添うと共に、東北教区の放射能問題対策室「いずみ」への協力や被災者支援センター「エマオ」へのボランティア派遣にも引き続き取り組み、また今後の災害発生時に備える体制を形作ることを願っています。合わせて昨年4月に発生した「熊本・大分地震」被災に対する教区としての支援も総会に提案されます。教団目標の1億8000万円の内、2000万円を4年かけて捧げることを提案いたします。これまで支えられてきた教区として、九州教区の被災15教会の支援のために祈りを合わせましょう。なお1日目議事後の報告・懇談会では昨年再建した水戸中央教会からの報告と共に、熊本・大分地震被災支援に取り組む在日大韓熊本教会の金牧師をお迎えして、被災の現状を伺います。なお震災から6年の3月11日（土）には教区東日本大震災記念礼拝が水戸中央教会において捧げられました。

ナルドの壺献金ならびに教会互助関係の議案も大切です。今総会で1,200万円を献金目標額として提案いたします。ナルドの壺献金運動による連帯が祝され、互助による教区協力伝道によって諸教会・伝道所の伝道がますます前進するように祈りを合わせましょう。

それ以外にも協議すべき課題として、教団伝道資金の活用、韓国基督教長老会京畿中部老会との交流（老会は交流継続を否決）、宗教改革500年等もあります。この総会でよき協議ができたらと願っています。

2日目午後には逝去教師と信徒の追悼式が執り行われます。共に祈りを捧げましょう。法定議案を含め限られた時間で沢山の議案審議を行います。円滑で内容豊かな協議となりますように、ご協力をお願いいたします。

第67回関東教区総会開催のお知らせ
〈公　告〉

第67回関東教区総会を教団規則第65条および教区規則第15条、17条に従って、下記の通り開催いたしますので、議員の皆様は登録の上、ご出席をお願いいたします。

日　時：2017年5月30日（火）午前10時～31日（水）午後4時
（受付時間は、5月30日午前9時30分～10時）
会　場：さいたま市・ソニックシティ小ホール
（〒331-0852　さいたま市大宮区桜木町1-7-5　℡048-647-4111　Fax048-647-4159）
宿　泊：パレスホテル大宮（〒331-0852　さいたま市大宮区桜木町1-7-5　℡048-647-3300）
ホテルマロウドイン大宮（〒331-0852　さいたま市大宮区桜木町2-173　℡048-645-5111）

［主な議題］
(1) 仮執行順序承認の件
(2) 准允式執行に関する件
(3) 教区総会特別委員選出の件
(4) 開票事務局を設置し、第67回総会中に選挙開票を行う件
(5) 教区総会議長選挙の件
(6) 教区総会副議長選挙の件
(7) 教区総会書記選挙の件
(8) 宣教部委員長選挙の件
(9) 常置委員選挙の件
(10) 各部委員選挙の件
(11) 常任、常設、特設委員会の選挙の件
(12) 教区議長報告
(13) 2017年度関東教区活動方針に関する件
(14) 秋季按手礼及び准允式執行の件
(15)「ナルドの壺献金」推進の件
(16)「会堂･牧師館建築緊急貸出基金」献金推進の件
(17)「教育費互助基金」献金推進の件
(18)「2017年度教団部落解放センター活動献金」推進の件
(19)「災害対応支援委員会」設置に関する件
(20)「熊本・大分地震」被災支援に関する件
(21) 活動停止伝道所廃止に関する件（江曽島伝道所、高谷林伝道所、久喜伝道所）
(22) 2017年度宣教部活動計画に関する件
(23) 2017年度教師部活動計画に関する件
(24) 2016年度一般会計決算承認の件
(25) 2017年度教区歳入歳出予算案承認の件
(26) 第67回教区総会議事録承認の件
(27) 次期第68回教区総会開催に関する件
(28) 常置委員選挙に関する件（議員提案）
(29) その他

2017年4月11日
日本基督教団関東教区　総会議長　秋山　徹

「部落解放祈りの日」礼拝の実施例

教区部落解放推進委員会

私たちの日本キリスト教団では、差別をなくす意味をこめて、「部落解放祈りの日」礼拝を「７月第２主日にしましょう」と推奨しています。全国の教会では、それぞれに工夫して礼拝をささげておられる姿があります。その中から、実施例を紹介します。

◇ＳＨ教会（北海教区）：この日の為に祈りをあわせました。私達が差別され、そして差別することから解放されますように。部落解放センターの働きを覚え祈りました。

◇ＭＴ教会（北海教区）：みんなの祈り；リタニー G (注1) を使用。

◇ＯＡ教会（大阪教区）：特別なことをしたのではありませんが、「説教」の中で「狭山事件」のことをお話し、祈りを合わせ、共に賛美しました。

◇ＴＭ教会（大阪教区）：説教で取り上げました。

◇ＨＫ教会（兵庫教区）：リタニー G～K (注1) までをまとめて牧会祈祷に用い、祝祷に創世記28：15を使用しました。実施しての教会員の意見、反応：祝祷の言葉が良かったと声がありました。水平社宣言をコピーして家で使うという人がいました。

◇Ｕ教会（西中国教区）：Ｇリタニー (注1)（説教後に使用）。

◇Ｍ教会（西中国教区）：・司会者、牧師の祈りの中で、祈りました。・部落差別が、すべての差別がなくなるように、私たちが差別をしない人になれるように、と祈りました。

◇IY教会（四国教区）：今年度は都合により９月第２聖日に「部落解放祈りの日」を実施しました。部落解放の前進とその働きを祈りました。

◇KH教会（九州教区）：説教題；「神の宴に招かれて」2014年度の解放劇を想起して。　説教後にリタニー L (注1) を使用。

◇Ｓ教会（九州教区）：交読　リタニー K (注1)。実施しての教会員の意見、反応：献金祈祷で女性信徒が、このような差別がなくなるようにと、とつとつと祈りました。

(注1) 部落解放センター・ホームページ：「部落解放祈りの日」運動パンフレットにあります。

☆上記「実施例」は、『解放の祈り・分かち合い「部落解放祈りの日」運動2016アンケート集計報告』教団部落解放センター（2017年2月1日）より。Ω

日野原記念上尾栄光教会　伝道師　長橋　和彦

2016年11月に、先の日本同盟基督教団より、教団への伝道師転入が許され、日野原記念上尾栄光教会に仕えることになりました。よろしくお願い致します。関東教区、埼玉地区の諸先生方にはお祈りとご支援をいただき感謝申し上げます。また、主の教会を建て育てて下さった先代の牧師、伝道師の先生方の尊い重い働きに、身の引締まる思いです。晴子伝道師が召されて5年になります。

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい。」（ルカ５：４）と私は示されました。そこには、教会の愛する兄弟姉妹と共に「立ち上がった」（エズラ１：５）と願い発した高い声が残ります。しかし福音宣教の業は主ご自身によることを心に、教会、地域に仕えていきたいと祈ります。

第66総会期第４回常任常置委員会（3/7開催）　第５回常置委員会（4/11開催）の主な報告

教区書記　栗原　　清

・韓国基督教長老会京畿中部老会との宣教交流について、中部老会のBee師が来日され、老会側の組織改編などの理由により、これまでのように続ける事が出来なくなった事の報告を受けた。関東教区としては、これまでの交流に感謝し、謝辞を伝える為に、秋山議長、疋田前議長、飯塚宣教部委員長が渡韓します。今後の交流については未定です。
・教区では、活動停止中伝道所の廃止手続きを進めています。現在、高谷林伝道所、江曽島伝道所、久喜伝道所の3伝道所の廃止に向けて手続きを進め、第67回教区総会の議案として提案します。
・「第67回教区総会」の準備を行いました。議長団の選挙、常置委員選挙、定例議案と、常置委員会提案議案の確認と議員提案「常置委員選挙に関する件」の議案を確認しました。
・第67回総会で准允志願者の面接を行い、以下の方々（敬称略）が准允を受けられます。
今井浩三（群馬地区・群馬町伝道所担任教師予定）
酒井麻利（茨城地区・下館教会担任教師予定）
湯目瑞枝（埼玉地区・東京聖書学校担任教師予定）
木村光寿（埼玉地区・飯能教会主任担任教師予定）
・「熊本・大分地震」被災支援に関する件（関東教区が4年間で2,000万円の献金推進）を第67回教区総会の議案として提案します。
・「『災害対応支援委員会』設置に関する件」（二つの被災支援委員会を一つにする提案）を第67回教区総会の議案として提案します。
・森野善右衛門巡回教師より辞任の申出があり、教区として辞任を承認しました。
・教務関係（敬称略）

(1) 教会担任教師異動

埼玉中国語礼拝伝道所	辞	秋山　　徹（代・正）
	就	林　　美音（宣・正）
本庄教会	辞	飯野　敏明（主・正）
	就	疋田國磨呂（主・正）
水戸教会	辞	玉置千鶴子（担・正）
長岡教会	辞	奥村　益良（主・正）
	就	玉置千鶴子（主・正）
柏崎伝道所	辞	奥村　益良（代・正）
	就	玉置千鶴子（代・正）
吾妻教会	辞	望月　達朗（主・正）
	辞	望月奈津子（担・正）
	就	指方　周一（代・正）
新津教会	辞	熊江　秀一（主・正）
	辞	熊江　知恵（担・正）
	就	小淵　康而（代・正）
太田八幡教会	辞	指方　周一（主・正）
	就	飯野　敏明（代・正）
大宮教会	辞	疋田國磨呂（主・正）
	辞	疋田　勝子（担・正）
	就	熊江　秀一（主・正）
	就	熊江　知恵（担・正）
下館教会	辞	相原　　聡（担・補）
四條町教会	辞	川上　　揚（主・正）
	就	藤　　秀彦（主・正）
	就	藤　　知佳（担・正）
新発田教会	辞	下田尾治郎（代・正）
	就	新保　能宏（主・正）
	就	新保　恵子（担・正）
埼玉和光教会	辞	最上　光弘（代・正）
	就	岩河　敏宏（主・正）
飯能教会	辞	土橋　　誠（主・正）
	就	木村　光寿（主・補）
上尾使徒教会	辞	松本のぞみ（主・正）
	辞	松本　　周（兼・正）
	就	武井アイ子（主・正）
深谷西島教会	就	塚本　　望（担・補）
東京聖書学校吉川教会	辞	佐々木千沙子（担・正）
	就	原田のぞみ（担・正）
北本教会	就	阿部　洋治（代・補）

(2) 神学教師・教務教師異動申請

共愛学園中学・高等学校	就	望月　達朗（教・正）
敬和学園高等学校	就	與那城初穂（教・正）
敬和学園高等学校	就	高橋　詠子（教・正）
東京聖書学校	就	原田のぞみ（教・正）

(3) 宣教師人事
アジア学院　Danny Ruppert（ブレザレン・ボランティア・サービス）2016年12月13日辞任
埼玉中国語礼拝　林美音（PCT：台湾基督教長老教会）任期：2016年10月1日より3年間

2. 各種申請･届
(1) 教師死亡届
川合喜四郎（隠・正）逝去日2017年2月6日
久保　　亨（隠・正）逝去日2017年2月26日
(2) 代表役員変更届
直江津教会　福島靜子 → 小池正造（代･主）
(3) 隠退届：森野善右衛門（隠・正）
奥村益良（隠・正）、疋田勝子（隠・正）
(4) 教会規則制定変更申請：長岡教会（制定）
(5) 隠退教師復帰願
小淵康而（隠・正）新津教会代務者就任予定

教区事務所だより

主事　金刺　裕美

2017年度が、主の御守りのうちに始まりました。

教区事務所では、年度末の締めと年度初めの様々な事務、そして教区総会への諸準備などが一度に押し寄せ、書類の山と格闘の慌ただしい毎日です。

◎書類の提出は、済みましたか？

提出書類がたくさんあります。提出期限を確認し、提出前に、もう一度内容・部数・サイズ等に注意し、書類の見直しをしてからお送りください。

◎教区総会議員登録の内容変更について

議員登録した内容に変更が生じた場合は、できるだけ早く教区事務所にご連絡ください。特に食事や宿泊に変更がある場合など、早期変更によりキャンセル料の徴収なしで済む場合もあります。

◎総会費用の納入について

納入は、**5月10日（水）までに必ず事前の送金をお願いいたします。**総会当日の納入はご遠慮ください。

◎教会負担金早期納入のお願い

新年度のスタートと共に、各委員会から活動のために交付金や諸経費の請求が出されています。各個教会・伝道所の財政が、年々厳しくなってきている状況にありますが、分割等によりできるだけ早期納入にご協力をお願い致します。

◎教団退職年金掛金補助および掛金互助申請書の提出期限について

教区通信の前号でもお知らせをいたしましたが、退職年金掛金について補助や互助の申請を希望する場合は、必要な書類を添付して地区委員会の決済を受けた後、教区事務所に必ず5月末必着にてお送りください。ご提出いただいた申請に対して、毎年6月開催の第1回常置委員会にて審議を行い、決定をいたします。

◎教区事務所の執務日・時間について

火曜日～金曜日　10時から5時

また、教区書記にご用の場合は火曜日に。

◎送金事務費、節減にご協力ください。

送金事務手数料25円という、安価な自動払込のシステムがあります。ぜひご利用下さい。

社会保険事務だより

保険事務　金刺　裕美

気候不順の日々に、体調を崩しておられる方も多く見受けられます。食事や睡眠そして趣味など心の開放時間を持ち、心身ともに元気な生活をお送りください。

◎健康保険料率・介護保険料率・子ども子育て拠出金の料率変更について

・健康保険料率（3月分より変更）

9.93%　→　**9.87%**

・介護保険料率（3月分より変更）

1.58%　→　**1.65%**

・子ども・子育て拠出金料率（4月分より変更）

0.20%　→　**0.23%**

上記のように保険料の改定が行われています。毎月の保険料は新料額表により確認してください。また、夏季賞与保険料は、標準賞与額（賞与支給額のうち、千円未満を切り捨てた額）に上記料率を掛けて算出してください。

◎社会保険報酬額報告書の提出

謝儀額の確定後、書類をご提出下さい。謝儀額により保険料の変更がある場合は、教区事務所より通知します。2等級以上の変化は7月分から、1等級の変化は9月分から変更になります。**4, 5, 6月分の保険料は、3月分と同額**で加入者全員、変更はありません。

◎年間自動払込金額一覧表の送付について

提出書類を基に、毎月の保険料・賞与保険料等の算出をして、1年間の自動払込金額表を作成します。作成には時間を要します。6月中旬頃までにお届けできるよう準備をしています。

◎生活習慣病予防健診の申込み

医療機関で受診日を予約のうえ、教区事務所へFAXにてお申込みください。

◎「自動払込希望科目確認書」未提出の場合について

提出期限までに申込みがなかった教会・伝道所の4月分は、自動引落をしていません。必ず月末までに、別途送金をしてください。ゆうちょ銀行にて青色振込用紙にご記入の上送金してください。また、納入遅滞には資格喪失手続きに入らざるをえませんので、ご了承ください。

訂正とお詫び

教区通信146号において、以下の点で漏れがありました。お詫びして訂正させていただきます。

3頁：祝按手　佐々木千沙子牧師

6行目の後に「前の祈り。豊かな聖霊ご臨在のお働きの中でなされた按手礼式を思い起こし、申命記」を挿入。

編 / 集 / 後 / 記

今年度から、私たちの教会で、教区のお祈りカレンダーに合わせて、祈祷会で祈り、お葉書を差し上げています。ご返事の葉書をいただくと、相手の教会の様子と共に、こちらの教会のことを祈っていてくださるとのこと。教会が互いに祈りによって支えられていることを改めて知り、教会の信仰が強められ、主から大きな祝福をいただいていると、感じさせられています。教区通信も、この葉書のように、互いに教会の信仰・伝道を支え合うために用いられることを願います。　（森田泰司）

日本基督教団関東教区宣教部委員会

宣教部だより

No.80　2017年5月7日

日本基督教団 関東教区宣教部委員会
委員長　飯塚拓也
301-0843　龍ヶ崎市羽原町1366-5
Tel. 0297（64）3768
http://uccjkanto.holy.jp

雪掘りキャンプ報告

雪掘りキャンプディレクター　長倉　望（新潟教会牧師）

今年も2017年2月15日～19日、十日町教会を会場に、「出会う！働く！考える！十日町雪掘りキャンプ」が開催されました。関東教区宣教部主催の青年キャンプとなって3回目となりますが、毎年このキャンプを楽しみに参加してくれるリピーター、その人たちの誘いで新たに参加してくれる人、また“被災支援トレーニングキャンプ”というユニークなあり方に意義を見出し参加してくれる人など、様々な人たちが集い、今回のキャンプは総勢33名と大所帯でした。

新潟は、昨年ほどではありませんが、今年も小雪の年でした。現地の方の感覚では、例年の6割くらいの雪だ、とのこと。実際のワークでは、十日町教会員のご家庭と栃尾教会、また十日町教会近隣の除雪作業を行うことができました。また、雪掘りのワーク先で、雪国ならでの暮らしや、中越地震の時の経験を伺う時も、参加者にとっては貴重な時間でした。

今回は、十日町教会に着任された久保田愛策牧師への引き継ぎも含め、京都から新井純牧師にも講師として参加いただきました。夜の学びの時間では、新井純牧師より中越地震の被災と十日町教会ボランティアセンターの働き、そして東北教区被災者支援センターエマオの専従スタッフとして5年お働きになった佐藤真史牧師から、震災の中で出会ってきた出来事、一人ひとりの物語、ボランティアセンターの物語を伺いました。また柴田信也牧師からは、長きにわたり被災支援の現場で働いてこられた経験によって培われた“被災支援哲学”とも言うべきお話を伺うことができました。毎朝の礼拝でも、それぞれの体験と聖書からのメッセージが分かちあわれ、よき学びを持つことができ感謝でした。

受け入れてくださった十日町教会の皆さん、参加者を送り出してくれたそれぞれの教会とご家族、様々な配慮をもって参加者を受け止めてくださった久保田愛策牧師とそのご家族に心から感謝いたします。

ＫＫＳキャンプ報告

KKSキャンプディレクター　小林　祥人（取手伝道所牧師）

今回のＫＫＳキャンプは「平和を生きる～命のつながりを考えよう」というテーマで、3月29～30日にかけて栃木地区内のアジア学院を会場に行われました。

前年に引き続き、東北教区からも参加がありました。参加人数は中高生・青年が12名です。これに関東・東北のスタッフが加わり23名でのキャンプとなりました。オリエンテーションに続き、学院の成り立ちや働きについて学び、ついで学院内を見学しました。また二日目にはワークに実際に参加し、体験を通してアジア学院への理解を深めるようにしました。これらを通し、私たちの「いのち」が支えられる上での、様々な「つながり」を少し感じることができたと思います。そして、ゲームでの楽しみや、「キャンドルサービス」での自分の考えや想いを語り合う中で、キャンプの参加者が、「平和」という言葉それ自体をあまり口に上らせることはなかったのですが、確かに互いに気持ちを通わせていくことができ、またそれが大切なことでもあると確認できたという印象を受けました。

今回は関東教区5地区すべてから派遣された私たちスタッフが議論を深め、それを東北教区の方々に提示し、意見の一致が見られるまで話し合いを繰り返しましたが、教区間でのこうした交流はこれまであまり例がなく、こうした事務的な作業にも一つの「つながり」の試みがあったと思います。しかし私たち大人より、若者たちははるかに早く、また上手に打ち解けることができていました。それは「今」にとどまることなく、物事を変えてゆこうとするエネルギーの表れともいえるのでしょう。こうした集まりをさらに発展させるということがあってよいでしょう。私たち関東教区の最も東北寄りの地にアジア学院があることにも（実際に東北からの参加者が集まりうるのも、那須塩原という地理的な条件によるところ大です）、あらためて不思議な導きのようなものを感じます。

これからも多くの中高生が関心を持ち、参加できるようなキャンプを企画したいと思います。

雪掘りキャンプの感想

雪掘りキャンプに参加して

手束　実結（栃尾教会　高３）

私は正直、家にいてもやることがないし、時間もあったのでじゃあ参加してみようという気持ちでこの雪掘りキャンプにくることを決めました。ですが、4泊５日のこのキャンプを通して様々な方々と出会い、関っていくなかで感じることがたくさんありました。

雪掘りキャンプというくらいなのだからイメージとしては、ただひたすら雪を掘る作業をするのかなと思っていました。ですが１日目、２日目、３日目と雪掘りのワークをすればするほど、大切なのは効率よく除雪することではないということに気づいていきました。たとえ作業がそれほど進んでいなくても「疲れたでしょ。あまり無理しないで、休んで下さいね。」という言葉をかけていただき、また作業がひと段落つくとお茶をだしてくださりゆっくりとお話をする時間を持つことができました。そこで私が感じたことは、一番大切なことは雪掘りを受け入れて下さった方々との交わりの時間だということです。交わりの中で、雪国ならではの知恵やその土地の歴史などたくさんのお話を聞くことができました。ただ雪掘りをするだけでは生まれなかった温かい雰囲気がそこにはあり雪掘りをすることができて良かった、またさせてもらいたいと思いました。そして雪掘りのワークを通して、わたしは改めて雪とともに生活することの大変さを感じました。今回雪掘りをさせていたただいたお宅のほとんどが普段は一人で作業をしているとおっしゃっていました。私も比較的に雪が多い地域で生活していますが、今まで真剣に雪掘りをしてこなかったことをとても悔やみました。私は春から雪の無い地域へ行きますが、冬場毎日のように重くて硬い雪と共に生活している人たちがいることを忘れてはいけないと感じましたし、機会があれば雪掘りをしに帰ってきたいなと思います。

今回の雪掘りキャンプに参加できてよかった思う理由の一つに色んな先生方のお話を聞くことができたことがあります。何度も被災地に足を運んでいる方々や被災者支援センター・エマオで働かれている佐藤真史さんや柴田信也さんのお話をきくことが出来たのはとても貴重な経験でした。特に私は佐藤真史さんのお話を聞いているとき、ハッとさせられました。なぜかというと、私の中で少しずつ東日本大震災の記憶が薄くなっていたことに気づかされたからです。震災から6年が経ち、テレビでは現状がほとんど放送されなくなっても放射線や仮設住宅などの問題が今もなお残されていることを再認識しました。そして3.11は過去形ではなく、現在行形なのだという真史さんの言葉を決して忘れてはいけないと思いました。そして“共に生きる”とはどういうことなのかということを私自身考え続け、その時その時にやるべきだと思ったことを行動に移していくことができる人になりたいと思いました。

初めての雪掘りキャンプでしたが一日一日がとても充実していました。雪掘りのワークや先生方のお話を通して色んなこと学ぶことが出来たし、雪掘りで出会った仲間と毎晩のように騒いだこともとても思い出に残りました。ぜひまた参加したいと思いました。

ゆっくりと、休みながら

新井　　翼（新潟教会　大４）

昨年の雪掘りキャンプが終わった直後から待ち焦がれること１年。今年も雪掘りキャンプが開催され、それに参加することができた。４回目の参加にして初めて初日から参加した今回のキャンプ、５日間通して考えていたことが１つある。それは「自分が災害現場に居合わせたらどうするか」ということである。

わたしは今年３月に大学卒業を控え、春からは教師として働くことになる。自分のことだけを考えていればよかったこれまでとは違い、今後は社会人として、また人の子どもを預かる身として責任のある行動が求められていくことになる。そのような中で地震などのような自然災害に見舞われたときどのような行動をすればよいのか、そのことをイメージしながら５日間過ごしてきた。

そんな中で印象に残っているのは２日目に佐藤真史先生の話の中で出てきた「スローワーク」という言葉。それまで「災害がおこったときにはまず生徒の安否確認、それから避難場所になるであろう学校での動き、さらにそれ以外で自分に出来ることは…」と想像の中で休みなく働き続ける自分にストップをかけたのがこの言葉だった。常にバタバタと動き続け、働き続けていてはいつか爆発してしまうよ、だから休憩しながらスローペースで働こうよ、と。

わたしはじっとしているよりも動いている方が好きで、実際雪掘りのワークでも休憩もほとんど取らずひたすら除雪作業を無心で行っていた。休憩をして座ってお茶をすすっている時間は短く、動いているときの方が楽しいとも感じていたように思う。言われてみれば確かに作業が終わった後に達成感や充実感といった心地よい疲れとともに蓄積されていく正体不明のなにか。それは連日の遅寝早起き（自業自得）とは関係ない（はずの）もの。それが溜まって行って４日目。この日のワークは午前中のみだった。一緒に作業をしていた数人と休憩をとり、さああと少し頑張ろうかと動き出そうとしたとき、自分の中にある違和感を覚えた。なかなかやる気が出てこない。皆と同じだけの作

業はこなしているけど楽しくない。早く終わらないかなとさえ思ってしまう瞬間もあった。真史先生の言っていたのはこれか、と思った。幸いなことにそうなってからほどなくワークは終了した。

もし今回のキャンプに参加せず、就職した先で自然災害に見舞われたら、自分は忙しい現場でこの現象に遭遇していたであろうと思う。しかし自分も周りも忙しいため作業を続けざるを得ず、こうなってしまった上で作業を続けることはさらなるストレスの原因となり、もっと自分を苦しめることになるだろう。話を聴いていたときは「まぁ自分は動く方が好きだし大丈夫でしょ」と思っていた。しかしそうではなく、誰だって働きすぎはストレスになるし誰も幸せにならない。今回のキャンプではこのことを学んだことが一番大きいと思う。

このキャンプで毎年たくさんのものを得るが、それは全て今後活きてくるものばかりである。来年、就職して１年目の年度末という忙しい時期に果たしてこのキャンプのことを考える余裕があるのか見当もつかない。しかし可能ならまた来年もこの豪雪に囲まれた町に帰ってきて仲間たちと再会し、この地に生きる人から、また被災地で生きてきた人たちから学びを得ることができたらうれしいと心から思う。

ＫＫＳキャンプの感想

平和なＫＫＳキャンプ

桐生東部教会　園部　紗也

今回もすごく楽しかったです。今年は本当に一人で来たから、友達ができるかとか楽しめるかとか不安だったけど、学べることも多くとても良い時間を過ごすことができました。

１番は皆さんが自分の体調を気づかってくれてうれしかったことです。小さいけど平和だなと思いました。またアジア学院がどんな活動をしているかは知っていたけど、実践することができたことが大きかったです。発展途上国でも行えるように、電気を使わずに全てのことを行うってすごく手間がかかるのだなと感じました。アジア学院の生徒さんでカメルーン出身のオスカルさんとたくさん話しました。私はカメルーンがどこにあるのかさえ分からなかったので、もっと調べようと思います。オスカルさんとお話しして興味をもったので、大学へいかせるように深めていきます。3日間という短い間だったけど、人と過ごすのってすごい大変だなぁと思いました。やっぱり得意不得意があって、自分の気持ちがおだやかでない時もありました。でも、全体的に楽しかったので、今回のＫＫＳも平和でした。この３日間で終わらずにもっと考えを深めていけたらと思います。

ＫＫＳきゃんぷ感想

那須塩原伝道所　村上　龍一

・今回初めての参加で、不安も少しあったのですが、新しい仲間ができたので良かったです。
・貿易というゲームがとても楽しくて、夢中になっていました。
・「平和」ということについて、まだまだ課題は残っているけれども、理解することが出来ました。
・劇で食と平和について行なったがアドリブにもかかわらずうまくいって、ホッとした。
・何よりも、先生たちの歌う歌が上手すぎてびっくりした。

2017年ＫＫＳキャンプ最終試験

名取教会　荒井　共生

問１　Ｃグループの劇に出てきた豚の名前は？
問２　２日目の夕食の肉は何の肉でしょう？
問３　スーパーに並んでいる豚の年齢は？
問４　日本で１年に捨てられている食べ物の量は？
問５「平和」の「和」はどんな意味があるでしょう？
問６　日本の食料自給率は何％でしょう？
問７　貧しい村の人たちに何をしてあげたらいいでしょう？
問８　そのために活動している学校の名前は？
問９　どうやって平和を作ったらいいでしょう？

【解答欄】
問１：新田豚　問２：ぶた　問３：６ヶ月　問４：年間1,900万トン　問５：食べること　問６：30％　問７：農業を教える　問８：アジア学院　問９：……

問９の答えを、みなさん考えてみてください。

高校生活の集大成

尚絅学院　大友　明啓

私がこのキャンプに参加するのは２回目だったので、今回はある程度のことは頭に入っているつもりでキャンプに参加した。しかし、実際に来て、家畜のこと、そのエサのこと、様々な命の上に私たちが成り立っていること、平和とは何かということ、私は１回来ただけでは深くまで学べていなかったのだということを感じた。おそらく３回目は今回学べないことを発見することができるのだと思う。

私は今回のキャンプは高校生活の集大成として臨んだ。大学で生活していく中で、どれくらいキャンプに行く時間がとれるか分からない。けれども、今回新たな学びを発見したことで、新たなキャンプへの参加の意欲がわいた。どんなに忙しくとも、時間を見つけて参加したいと思う。

～今回のキャンプでの学び～

・改めて「命」を感じた
・平和ということ　→　皆違う。
・食の尊さ

～次回のキャンプの目標～

・今ある学びを更に深める！
・対話・交流を通して視野を広げたい！

ＫＫＳキャンプ！！Ｓｐｒｉｎｇ

須賀川教会　武藤　未菜

私は今回、２日目から参加しました。この２日間の中で一番心に残っているのは、キャンドルサーヴィスです。私は２日目から急に参加したので今回は正直何も言わなくてもいいかな、と思ってしまいました。でも、周りの友達や先輩の話を聞いて、私と少し似ているな、という話などがあり、私も自分の過去を打ち明けよう、そう思いました。部屋の友達、先輩も優しく接してくださって本当にありがとうございました。

先生方も本当に急な参加になってしまい、本当に申し訳ありませんでした。お世話になりました。また、お会いできることを楽しみにしています!!

【２０１７年度宣教部の行事日程】

2017 年度の宣教部の主な活動計画です。

諸教会・伝道所の皆さまには活動計画を覚えていただき、積極的にご参加をお願いいたします。

5 月 30 日(火)	教区教誨師との懇談会
6 月 1 日(木) ～2 日(金)	教区教会婦人会連合総会･修養会
6 月 19 日(月) ～20 日(火)	新任教師オリエンテーション
6 月 26 日(月) ～27 日(火)	開拓伝道協議会
7 月 17 日(月・祝)	教区の宣教を考える集い
7 月	女性と男性が共に宣教を担うための地区連絡会議
9 月 18 日(月)	社会活動協議会
9 月	5 地区青年の集い
2018 年 2 月	雪掘りキャンプ
2018 年 3 月	ＫＫＳキャンプ

2017 年度開拓伝道協議会ご案内

開拓伝道協議会委員長　竹花　基成

新年度を迎え、希望に満ちて主の御用にお励みのことと存じます。新年度も開拓伝道協議会ご案内の季節がやってまいりました。新年度は茨城で開催されます。心身共に日頃の疲れが癒され一層働きが祝されるよう願っております。どうぞ奮ってご参加下さい。

＊日　時　　2017 年 6 月 26 日（月）～27 日（火）
＊主　題　「やすらぎの地を求めて」
＊講　師　　若月健悟牧師（守谷伝道所）
＊会　場　　守谷伝道所
＊宿　泊　　オークラフロンティアホテルつくば
＊費　用　　１万円前後（一泊３食）
　交通費等の補助を予定。
＊教会訪問　神の愛キリスト伝道所、水海道教会

この協議会はどなたでも参加できます。特にまだ一度も参加されたことのない方は、是非新年度予定して頂ければ幸いです。